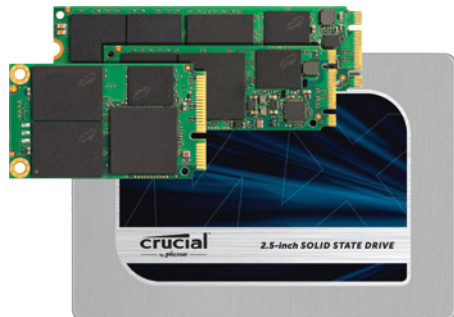


Crucial[®] MX200ソリッドステートドライブ

ストレージをこれまで以上に有効に活用。

Crucial[®] MX100はSSDに新たな基準を設定しましたが、Crucial MX200はそれをさらに高いレベルへと押し上げます。あらゆる面で最高レベルの仕様を誇り、新しいDynamic Write Accelerationテクノロジーを備えたCrucial MX200は、革新的な機能を満載し、システムのパフォーマンスを今すぐにでも向上できます。



パフォーマンスと耐久性 | Crucial MX200を使用する利点

起動はほぼ瞬時。プログラムのロードは数秒で完了。要求の厳しいアプリケーションを簡単に高速化。



より多くの処理を、より高速に、より長期間にわたって。

Crucial MX200は、データが圧縮可能かどうかを問わず、550 MB/sのシーケンシャル読み込みを達成し、一般的なハードドライブを400 MB/sも上回ります¹。さらに、Crucial MX200は一般的なSSDの最大5倍の耐久性評価を誇るため、パフォーマンスが低下することはありません²。



パフォーマンスを最大限に高め、信頼性を向上。

複数のハードドライブでRAIDを使用するのに似た方法でデータをコンポーネントレベルで保護する、独自開発のRAINテクノロジーが採用されています。このテクノロジーによって、データのセキュリティと保護は、一般消費者向けのSSDとしては類を見ないレベルにまで引き上げられます。



大きなファイルも数秒で転送、保存。

他社製SSDは一般にマルチレベルセルフラッシュメモリの固定キャッシュを利用しており、公表された仕様の数値でシーケンシャルデータを書き込めますが、長い時間がかかります。業界をリードするMicronのDynamic Write Accelerationテクノロジーは、高速のシングルレベルセルフラッシュメモリの適応型プールを使用し、高いパフォーマンスを一貫して維持することで、この問題を解決します。



可能な最高のレベルでデータを暗号化、保護。

個人情報のファイルや機密性の高い情報をハッキングや盗難からAES 256ビット暗号化で守り、銀行や病院と同等のセキュリティ水準を達成します。Crucial MX200は、Microsoft[®] eDrive、IEEE-1667、TCG Opal 2.0など、業界のすべての暗号化標準を満足または上回る性能を備えています。

効率と信頼性 | Crucial MX200を使用する利点

最大1TBのデータを格納でき、ハードドライブや他社製SSDを上回る信頼性を実現します。



より少ない消費電力で、より長い耐用年数。

Extreme Energy Efficiencyテクノロジーを採用したCrucial MX200は、エネルギー効率が一般的なハードドライブの約2倍です³。



ドライブの性能限界まで使っても過熱とは無縁。

Crucial MX200の「適応型熱保護」テクノロジーが、ユーザーの使用状況に応じてストレージコンポーネントの動作を動的に調整し、お使いのストレージシステムの温度上昇を防ぎます。



思い出、写真、ファイルを安全に保管。

写真やファイルが破損してしまうと、多くの場合は使えなくなってしまいます。Crucial MX200 SSDでは、ファイルの破損を根本的に防ぐために、あらゆるストレージコンポーネントが4層のExclusive Data Defenseで守られています。

Micron®の品質：ワンランク上の信頼性。



世界最大級のフラッシュストレージメーカー、Micronのブランドの1つであるCrucial MX200の裏付けとなっているのは、世界で最も先進的なメモリおよびストレージのテクノロジーを生み出したのと同じ品質およびインベーションです。1,000時間に及ぶリリース前検証テストと数百回に及ぶSSD品質テストを通して、Crucial MX200は実際の使用における信頼性が証明されています。Crucial MX200 SSDを選択すれば、ストレージをこれまで以上に有効に活用できるようになります。

Crucial® MX200 SSD

フォームファクタ

- 2.5"
- mSATA
- M.2 (2260)
- M.2 (2280)

耐久性

- **250GBドライブ**: 総書き込みバイト数 (TBW) 80TB (1日43GB×5年間に相当)
- **500GBドライブ**: 総書き込みバイト数 (TBW) 160TB (1日87GB×5年間に相当)
- **1TBドライブ**: 総書き込みバイト数 (TBW) 320TB (1日175GB×5年間に相当)

寿命 (MTTF)

150万時間

保証

3年間制限付き保証

動作温度

0°C~70°C

ファームウェア

ユーザーによるアップグレード可能なファームウェア

サポート

インストールと保証の情報については、crucial.com/supportにアクセスしてください。

ハードウェア暗号化

- AES 256ビット暗号化
- TCG Opal 2.0準拠
- IEEE-1667準拠
- Microsoft® eDrive®に対応

データ転送ソフトウェア

付属のAcronis® True Image™ HDソフトウェアで自由にデータ転送が可能

法規制準拠

CE、FCC、BSMI、IC、C-Tick、VCCI、Kcc、RoHS、WEEE、TUV、UL

高度な機能

- Dynamic Write Acceleration
- Redundant Array of Independent NAND (RAIN)
- Exclusive Data Defense
- 適応型熱保護
- 電力損失保護⁴
- データバスの保護
- アクティブガベージコレクション
- TRIMサポート
- Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology (SMART)
- 誤り訂正符号 (ECC)

容量	部品番号	梱包内容	シーケンシャル読み込み (MB/s)	シーケンシャル書き込み (MB/s)	ランダム読み込み (IOPS)	ランダム書き込み (IOPS)	Dynamic Write Acceleration
2.5" (7mm) SSD							
250GB	CT250MX200SSD1	2.5" (7mm) SSD、7mm~9.5mmスペーサー、Acronis® True Image™ HD証明書	555	500	100k	87k	•
500GB	CT500MX200SSD1	2.5" (7mm) SSD、7mm~9.5mmスペーサー、Acronis® True Image™ HD証明書	555	500	100k	87k	不要
1TB	CT1000MX200SSD1	2.5" (7mm) SSD、7mm~9.5mmスペーサー、Acronis® True Image™ HD証明書	555	500	100k	87k	不要
mSATA SSD							
250GB	CT250MX200SSD3	mSATA SSD、取り付け用ネジ	555	500	100k	87k	•
500GB	CT500MX200SSD3	mSATA SSD、取り付け用ネジ	555	500	100k	87k	•
M.2 Type 2260 SSD							
250GB	CT250MX200SSD6	M.2 Type 2260 SSD、取り付け用ネジ	555	500	100k	87k	•
500GB	CT500MX200SSD6	M.2 Type 2260 SSD、取り付け用ネジ	555	500	100k	87k	•
M.2 Type 2280 SSD							
250GB	CT250MX200SSD4	M.2 Type 2280 SSD、取り付け用ネジ	555	500	100k	87k	•
500GB	CT500MX200SSD4	M.2 Type 2280 SSD、取り付け用ネジ	555	500	100k	87k	•

注: ストレージ容量の一部は初期化などの目的に使用されるため、データの格納はできません。1GBは約10億バイトです。実際に使用可能な容量は変動する可能性があります。

1. パフォーマンスの比較は、500GBのCrucial MX200 SSDと1TBのWestern Digital® Caviar Blue™ WD10EZEX内蔵ハードドライブの公表されたシーケンシャル読み込み仕様に基きます。WD10EZEXは現在最も売れているハードドライブの1つであり、一般的な内蔵ハードドライブの性能を正確に反映しています (2014年9月現在)。

2. 1TBのCrucial MX200 SSDの公表された耐久性評価 (TBW) は、3つの主要なクライアントSSDの公表された耐久性評価の平均値の5倍です (2014年9月)。これらのクライアントSSDは、1TBのSamsung® 840 EVO、480GBのSanDisk Extreme Pro® II、および480GBのIntel® 530 SSDです。

3. ハードドライブ動作時平均消費電力の比較は、1TBのCrucial MX200 SSDと1TBのWestern Digital® Caviar Blue™ WD10EZEX内蔵ハードドライブの公表された仕様に基きます。WD10EZEXは現在最も売れているハードドライブの1つであり、一般的な内蔵ハードドライブの性能を正確に反映しています (2014年9月現在)。

4. 静止時のデータのみを参照

5. IOMeter®を使用し、キューの深さ32、書き込みキャッシュ有効状態で測定された一般的なI/Oパフォーマンスの数値。開封後未使用 (FOB) 状態を前提とします。パフォーマンス測定を目的としてSSDをFOB状態に戻すには、Secure Eraseコマンドを使用できます。システムのバリエーションによって測定結果は異なります。